

News Letter

山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

■ 第32号 ■

2010年 7月20日

CONTENTS

■ 産学公連携・イノベーション推進機構長 ご挨拶 ……	1	■ 有限会社山口ティール・エル・オー代表取締役 就任挨拶	7
■ 産学公連携・イノベーション推進機構 各部門・スタッフの紹介 ……	1	■ MTA(研究成果有体物)の取り扱いについて ～「MTAハンドブック」より～ ……	7
■ 山口大学の元気取り組みを紹介! ～科学・技術フェスタin京都～ ……	4		
■ イベント出展のお知らせ ……	4		
■ 平成21年度 共同・受託研究の実績報告 ……	5		
■ 平成22年度 客員教授の紹介 ……	6		

発行 産学公連携・イノベーション推進機構
 連絡先 〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16-1
 電話 0836-85-9961 FAX 0836-85-9962
 e-mail yuic@yamaguchi-u.ac.jp
 URL http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/

産学公連携・イノベーション推進機構長 ご挨拶

産学公連携・イノベーション推進機構長
 (学術研究担当副学長) 三池 秀敏



今年度4月から産学公連携・イノベーション推進機構長(学術研究担当副学長)を務めています三池です。昨年度末の不正経理等の問題の発覚に伴い、今年度当初は「研究者倫理の再構築に向けて」への対応に追われています。一方、宇部興産やトクヤマとの「包括連携」の共同研究報告会や、「大学等産学官連携自立化促進プログラム」の中間ヒアリング等への参加を経験し、本機構の現状や課題等が見え始めている段階です。特に、本機構の地域発イノベーション創出支援への特色ある取り組みは評価できるものの、経済環境の悪化等の諸要因もあり共同研究の件数・金額等はかなり厳しい状況です。この中で、自立化に向けて財政基盤の強化を最重要課題と位置付けて努力しています。イノベーション創出を目的とする産学連携活動への皆様のご理解とご支援を、今後とも宜しくお願い致します。

産学公連携・イノベーション推進機構 各部門・スタッフの紹介

産学公連携支援部門

産学公連携支援部門は、産学連携コーディネータ等のスタッフを中心となって、社会・地域・産業界に開かれた大学の窓口として、つぎのような業務を実施しています。

- ・ 社会に役立つ学内研究成果の発掘、知財化支援および学外への紹介
- ・ 学外からの技術や経営に関する相談窓口
- ・ 産学官が連携した共同研究や受託研究の推進のための支援
- ・ 社会的課題の解決や新たな産業創造に向けて、競争的研究開発資金を活用した大型研究の推進支援
- ・ (有)山口ティール・エル・オーなどと連携した知財のライセンス
- ・ 技術移転やベンチャー企業立上げを通じた学内で生み出された研究成果の事業展開の支援

特に、近年、これまでの理工系技術の支援に加えて、「ライフサイエンス支援室」を設立して、ライフサイエンス系技術を集中支援しています。



部門長
近久 博志教授



マネージャ
(中国経済局出向)
松本 正准教授



産学連携コーディネータ
森 健太郎准教授



産学連携コーディネータ
櫻井 俊秀



産学連携コーディネータ
杉浦 文彦

ライフサイエンス支援室



室長
乾 誠教授



プロジェクトプロデューサー
野利本 悠



産学連携コーディネータ
殿岡 裕樹

イノベーション支援部門

イノベーション支援部門は、イノベーション創出、特に地域発イノベーション創出を大きく2つの面から支援している部門です。その1つは、イノベーション創出の場としての機構内部の貸与やイノベーションのきっかけとなる研究推進に必要な設備や装置のオープン利用環境の整備など、ハード面からの支援があります。特に今年度から、地域産学官共同研究拠点整備事業「やまぐちイノベーション創出推進拠点」に基づいた各種設備・測定装置・実験機器の整備が始まり、平成23年3月までに、多くの測定装置・実験機器が、地方独立行政法人 山口県産業技術センター及び当機構内に整備されます。これらの装置・機器の詳細については、別の機会にお伝えすることになりますが、地域発イノベーションに貢献できる設備・装置・機器を整備しますので、皆様の積極的なご利用をお願い申し上げます（整備予定装置・機器の一部抜粋を表1に示します）。

表1 地域産学官共同研究拠点 整備構想により当機構内に整備予定の装置・機器（一部抜粋）

サーマル電界放出形走査電子顕微鏡	透過型電子顕微鏡
ナノ粒子径分布測定装置	汎用画像センシングシステム
ソーラーシミュレータ	自動細胞解析分取システム
CO/CO ₂ 有機炭素分析システム	熱分解ガスクロマトグラフ・質量分析システム

もう1つは、人材育成などソフト面から支援することを行っています。これは、部門内に設置されているイノベーション人材育成支援室が中心となって、将来、イノベーションを起こす研究人材やこれを支援する人材の育成を目指しており、「若手イノベーション人材育成プログラム」として、先述のような人材の育成を、「イノベーションシーズ育成プログラム」として、イノベーションを起こしうるような研究シーズに対する研究補助を行っています。また、大学発ベンチャーの起業支援についても、助言専門家の派遣、ベンチャーフォーラムの開催、各種講演会の実施など、直接的、間接的な支援事業を行っています。

以上述べてきましたように、イノベーション創出、特に地域発イノベーション創出に、様々な面から支援を行っている他、今後も支援プログラムの拡充を行って行く予定です。皆様から「このような形の支援を実施できないか」などのご要望をお聞かせいただければ、今後の活動の参考にさせていただきますと考えております。

最後に皆様のご理解とご協力をお願いしたい事項があります。当機構をご訪問いただいた際に、内線電話による担当者呼び出しや立ち入り場所の制限など、皆様に、ご面倒をおかけすることもあるかと思っております。当機構は共同研究などの実施拠点であり、これらに関わる多くの情報が集積する場となっております。これらの情報に関する機密保持も機構の重要な使命です。このための措置ですので皆様のご理解とご協力を改めてお願い申し上げます。



部門長
堤 宏守教授



マネージャ
李 鎔璟准教授



マネージャ
林 里織講師

イノベーション人材育成支援室



室長
李 鎔璟准教授



アドバイザー
濱田 純夫



アドバイザー
大高 聡



アドバイザー
浜本 俊一



非常勤研究員
(産学連携コーディネータ)
田口 岳志



非常勤研究員
中村 美紀子

知的財産部門

本学の研究活動で生まれた成果（知的財産）を保護・管理し、知的財産の社会における活用と価値創造に繋がる諸活動を行っています。発明等の権利化・管理では、研究者のさまざまな疑問や先行技術・特許調査の要望等に応えるとともに、産業応用の可能性も考慮しながら権利化を進めています。知的財産の活用では、(有)山口ティー・エル・オー等と協力しながら、知的財産の産業界への移転を図っています。また、山口大学が独自開発したYUPASS（山口大学版特許情報検索システム）の利活用を図り、研究者支援を進めています。

○ 知財支援活動

- ・研究成果の中からの発明発掘並びに権利化
- ・大学研究者に対する特許情報検索、特許マップ作成等の支援
- ・ライセンス等の知財活用業務の支援
- ・山口大学で独自開発の特許検索システム（YUPASS）の運用と普及

○ 知財啓発活動

- ・企業、地方行政・指導機関、周辺教育機関への知財研修会の開催
- ・学内知財人材の育成：特許情報検索等の各種学生特許インストラクターの養成と認定
- ・大学研究者、学生向けの知財教本の出版
- ・大学研究者、学生向けの研究ノートの運用と普及



部門長
佐田 洋一郎教授



ディレクタ
田崎 泰孝



ディレクタ
加納 好昭



ディレクタ
藤本 昌平

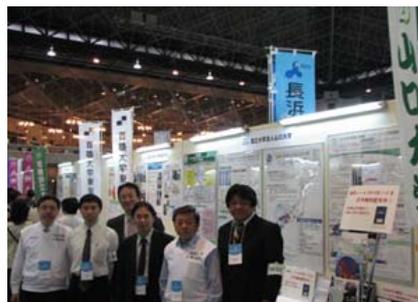
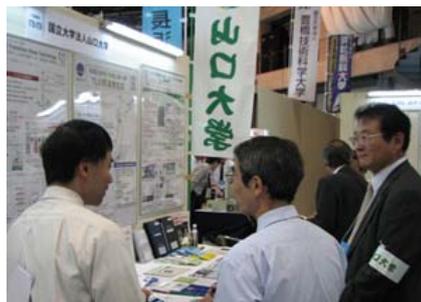
山口大学の元気取り組みを紹介！～科学・技術フェスタin京都～

6月5日（土）に国立京都国際会館（京都市）を会場として「科学・技術フェスタin京都（平成22年度産学官連携推進会議）」（主催：内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省ほか）が、全国から総勢5,121人の参加のもとで開催されました。

今年は内容を大幅に変えて実施され、科学・技術の重要性や成果を広く国民にPRするため、産学官に関する取り組みを紹介するだけでなく、高校生から一般の人まで広く対象を広げたシンポジウムや科学実験教室など各種企画が行われました。

本学からは三池機構長（副学長）をはじめ、産学公連携・イノベーション推進機構のスタッフ、産学連携課職員が講演会への参加や展示コーナーを回り、産学官連携について全国の動きや今後の方向性などについて情報収集いたしました。

また、各大学、研究機関が研究成果、活動内容を紹介する展示コーナーでは、山口大学で取り組む文部科学省「大学等産学官連携自立化促進プログラム」の中から、山口地域の産業支援機関や大学等のコーディネータが連携して実施する「やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議」の活動を報告。また、山口大学大学院理工学研究科の研究チームの成果をもとに平成21年6月に設立した大学発ベンチャー「株式会社TSテクノロジー」の事業活動の紹介。有限会社山口ティー・エル・オーの7地区の連携協力協定の中から生まれた技術移転の成果の紹介。そして、知財部門から山口大学で独自に構築した特許庁と同じ規模の特許検索システム（YUPASS）の紹介と、山口大学とコクヨが共同開発した「リサーチ・ラボ・ノート」の無料配布を行い好評を得ました。また、山口県出身で現在地元を離れている方も多く来場されて山口大学への期待を熱く語られるなど意義ある展示会でした。



イベント出展のお知らせ

山口大学から下記2件のイベントに出展いたします。みなさまのお越しをお待ちしております。

■キャンパス・イノベーションセンター東京 新技術説明会

日時：平成22年7月30日（金） 12：45～16：40 参加費：無料（事前登録制）

会場：キャンパス・イノベーションセンター東京（東京都港区田町）

詳細→ <http://jstshingi.jp/cic-tokyo/2010/index.html>

<山口大学発表者>

- 「ブルセラ症の新規診断手法の開発」

山口大学農学部 准教授 度会 雅久（わたらい まさひさ）

- 「新規触媒を用いた環境に優しいバイオディーゼル油の製造法」

山口大学大学院理工学研究科 特命教授 福永 公寿（ふくなが きみとし）

■中国地域さんさんコンソ新技術説明会

日時：平成22年8月20日（金） 10：00～16：50 参加費：無料（事前登録制）

会場：科学技術振興機構 JSTホール（東京・市ヶ谷）

詳細→ <http://jstshingi.jp/sansan/2010/>

<山口大学発表者>

- 「子宮頸癌の新しいバイオマーカーと治療ターゲット」

山口大学 大学院医学系研究科 産科婦人科 助教 福島 千加子

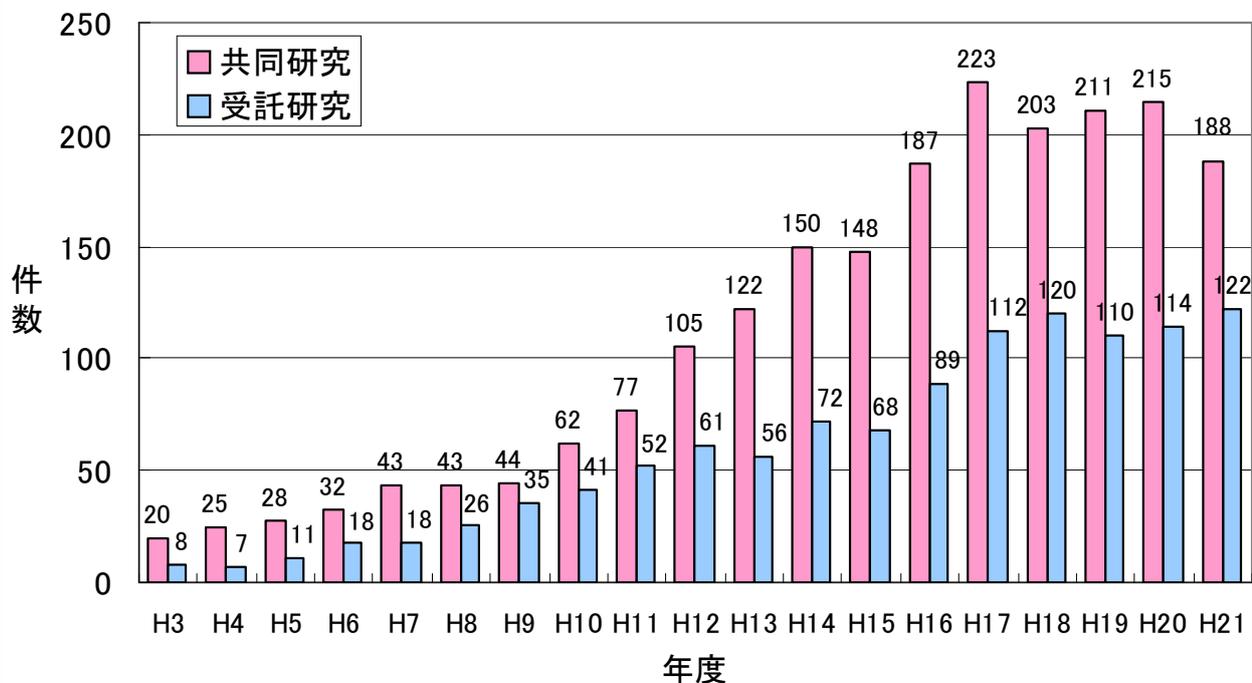
- 「carbonyl reductase の発現による子宮がんの予後予測とオーダーメイド治療・分子標的治療への応用」

山口大学 大学院医学系研究科 産科婦人科 講師 村上 明弘

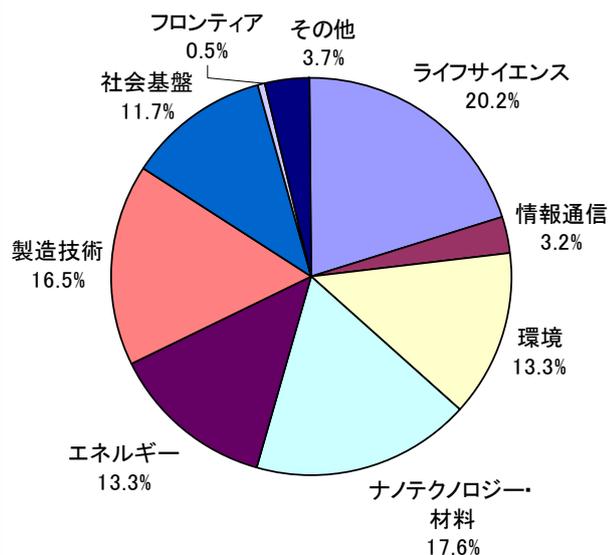
平成21年度 共同・受託研究の実績報告

平成21年度の共同研究と受託研究の実績をお知らせします。
共同研究188件、受託研究は122件となりました。

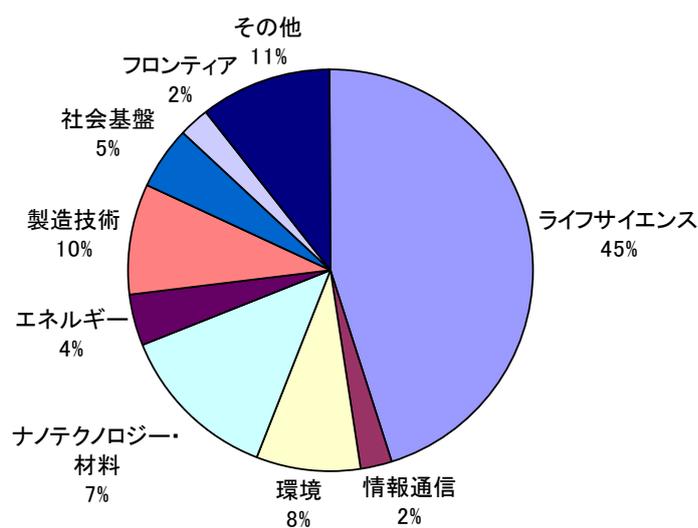
共同研究・受託研究件数推移(H21年度)



共同研究分野別割合(H21年度)



受託研究分野別割合(H21年度)



平成22年度 客員教授の紹介

当機構では、今年度も山口大学と民間企業等との共同研究の推進等を目的として民間機関等から客員教授を迎え、「特別講演会」や「セミナー」等を開催致します。

なお、講演会の案内は機構発行のメールマガジンやホームページでも随時お知らせします。

氏名	現職	専門分野
櫻木 史郎	ユニオンマテリアル株式会社 代表取締役	結晶成長(澆液結晶化法、整形結晶化法)
松本 理	山口大学 客員教授	園芸栽培学および園芸育種学
奥山 茂	大正製薬株式会社 上席理事 医薬研究本部・本部長	創薬研究(標的探索、薬理学、薬物代謝学、毒性学)
松田 益義	MTS雪氷研究所 代表取締役	雪氷学、環境科学
松田 布佐子	株式会社環境経済研究所 代表取締役	生物生産科学、環境科学
原田 博	ライト工業株式会社 本社顧問	斜面安全、防災(地球温暖化対策とその海外展開)
海原 荘一	株式会社エイト日本技術開発 河川・港湾事業本部 中国支社 河川・ 港湾部 河川砂防グループ プロジェクトマネージャー	土砂移動現象
倉本 和正	中電技術コンサルタント株式会社 河川・環境本部 河川部 防災グループ 主査	防災危機管理
真下 英人	独立行政法人土木研究所 道路技術研究グループ長	トンネル工学
高原 吉幸	セントラル硝子株式会社 常務執行役員	植物病理学(微生物防除、微生物農業)
小林 薫	飛鳥建設株式会社 技術研究所副所長	地盤工学・情報化施工、地下空間学、地下水工学
辻本 一義	辻本法律特許事務所 弁理士	知的財産権
辻本 希世士	辻本法律特許事務所 弁護士、弁理士	知的財産権
奥 登志生	山口大学 客員教授	知的財産
羽根 拓也	株式会社アクティブラーニング 代表取締役社長	ベンチャービジネス育成
植田 清隆	電力中央研究所 研究顧問等	電力系統の計画と運用制御、省エネルギー発電電機器、工場内直流配電の省エネ制御

(H22.4.1付採用者)

有限会社山口ティー・エル・オー 代表取締役 就任挨拶



去る6月、山口大学の技術移転機関である有限会社山口ティー・エル・オーの代表取締役に就任しました村田秀一です。平成11年にTLO設置準備委員会の委員長としてその構想を取りまとめから、ほぼ10年が経過しました。その間、日本の経済、産業界は停滞期となり、日本の財政状況は極めて厳しい状況の中、国立大学の法人化、政権交代と先を見通すことが難しい時代となっております。我が国の産学連携活動も厳しい経済状況を反映し新たなステージを迎えておりますが、大学そのものの改革もこれまで以上のスピードで進む必要があります。その中で、大学の研究活動から生まれた成果の産業界への移転は、わが国の持続的な発展に不可欠なものと確信しております。山口大学は地域の基幹総合大学として歩んでおりますが、2015年の創基200周年に向けて、「明日の山口大学ビジョン」構想を実現しその機能をさらに充実されることと思います。

弊社は山口大学の技術移転機関として、大学の知的財産の産業界への移転や産学活動を強力にサポートし、日本及び地域の産業界の活性化に貢献できるように精力的に取り組みます。今後山口大学と一体となり、これらの活動を推し進めてまいりますので、教職員および企業等の皆様のご協力ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

MTA(研究成果有体物)の取り扱いについて～「MTAハンドブック」より～

MTAって何？

MTA (Material Transfer Agreement) とは、化合物、試作品、実験用動植物、微生物及び抗体などの研究成果有体物を、外部機関（研究機関、企業）の研究者との間で移転（提供又は受け入れ）する際に、その取扱いに関する取り決めを行う有体物提供契約です。

山口大学では、対象となる研究成果有体物は、原則として法人帰属としています。MTAでは、研究者同士ではなく、機関名義で契約を行うことを原則とします。ただし、相手方から研究成果有体物を受領する場合には、当該相手方の求めに応じて契約を締結するものとします。なお、役務で試薬や試験品を購入する場合、あるいは研究成果有体物の外注分析を依頼する場合は、MTAの対象から除外されます。

MTAを締結する必要性

MTAは、主に移転される研究成果有体物の権利、取り扱い、結果として生じる知的財産権等の取り扱いについて定めるものです。相手方へ研究成果有体物を提供する際は、その権利が山口大学にあることを主張し、対価を要求するためだけのものではなく、第三者への情報流出の防止や損害に対する免責という重要な役割があります。

また、受け入れの際は、提供先から研究成果の発表や知的財産権の権利帰属、今後の研究活動に対して不必要な制限をかけられないようにすることも大切になります。

山口大学におけるMTA締結手続き

平成21年度に山口大学研究成果有体物取扱規則が改正され、契約の相手方が研究機関の場合は山口大学学術研究部産学連携課が行い、契約の相手方が営利機関の場合は山口TLOが主体的に実施することとなりました。

MTAによる収入の取り扱い

研究成果有体物提供にあたり、山口TLOが契約締結を行った場合は、提供対価は山口TLOが収受します。その後、手数料20%を差し引いて山口大学に支払うこととなります。



外部機関へ提供するときの注意事項

その研究成果有体物の作製者はあなた自身ですか？

他から提供を受けた研究成果有体物については、第三者に提供することが認められていない例が多数あります。受領した際の契約書を再確認してください。

また、あなたが山口大学に赴任する前に作製された場合、前任機関との約束事はありますか？

その研究成果有体物は知的財産権（出願中も含む）には関係ありませんか？

特許が未出願の場合、契約内容によっては今後の出願活動に支障を起こす可能性があります。また、既に特許権等の知的財産を取得、出願している場合には、MTAに特許の存在を明記し、その取扱いについても規定を盛り込む必要があります。

無理な条件を要求されていませんか？

研究成果有体物の性能保証や、提供先での事故や第三者への損害賠償責任など、過度の保証を要求されるケースも考えられます。

提供先は輸出可能な機関ですか？（特に相手方が外国機関の場合）

外為法（安全保障貿易管理）などの法令により、特定の目的に使用可能な物の輸出については制限されています。特にバイオ系試料には、生物兵器への応用が可能なものも存在します。

MTAを巡るトラブルの可能性

MTAを締結しなかった場合、様々なトラブルが生じる可能性があります。現に他大学では類似の事例が報告されています。特に研究者にとっては発表のチャンスを失ったり、成果を不必要に提供者側と共有することは面白いことではありません。

MTA契約についての詳細は「[MTAハンドブック（研究成果有体物の取り扱い）](#)」をご覧ください。

MTAの相談窓口

【契約の相手が研究機関の場合】

山口大学学術研究部産学連携課研究契約係

電話：0836-85-9960 又は 9988（内線9960、9988）

メール：sh053@yamaguchi-u.ac.jp

【契約の相手が企業の場合】

有限会社山口ティー・エル・オー

電話：0836-22-9768（内線8980）

メール：tlojim@crc.yamaguchi-u.ac.jp

【知的財産に関すること】

山口大学産学公連携・イノベーション推進機構 知的財産部門

電話：0836-85-9964（内線9964）

メール：chizai@yamaguchi-u.ac.jp

【ライフサイエンス分野の研究成果有体物取扱いに関すること】

山口大学産学公連携・イノベーション推進機構 ライフサイエンス支援室

電話：0836-85-3062

メール：life-s@yamaguchi-u.ac.jp

山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構

Innovation Center, Yamaguchi University

連絡先：〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16-1

発行：山口大学 産学公連携・イノベーション推進機構 TEL:0836-85-9961 FAX:0836-85-9962

E-mail: yuic@yamaguchi-u.ac.jp ホームページ: <http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/>
